野毛山動物園なかよし広場でのハツカネズミの見せ方の工夫

○齋藤愛子，藤岡隆二，矢作薫里，大沼美聡，杉原隆宜，全玲華
（（公財）横浜市緑の協会　動物園部　野毛山動物園）

野毛山動物園「なかよし広場」では、ハツカネズミのふれあいを行っている。ふれあい開始当初はハツカネズミが逃げてしまわないように深さのある箱（95 ㎝×60 ㎝、深さ 50 ㎝）で展示していた。それを子供がネズミを持ちやすくするためにはどうしたらよいかを考慮し、箱ではなく台（115×70×5 ㎝、脚高 75 ㎝）に変更したところ、ネズミは逃げ出すことなく効果的な展示方法に改善することが出来た。

また、なかよし広場では 2 時間ごとに動物の入れ替えと広場内清掃を行っており、入れ替え 5 分前の放送で、ハツカネズミが休憩場所に移動することをアナウンスすると、利用者はハツカネズミ展示台に注目する。スタッフが展示台と頭上に張り巡らされたロープをつなぐように棒を立てると、ハツカネズミは休憩場所である「ねずみワールド」へと綱渡りしていく。動物の回収を行う労力を減らすとともに、利用者が動物の能力を観察しつつ、楽しい気持ちでふれあいの終了を促す仕掛けにもなっている。

ハツカネズミの綱渡りのきっかけは動物の尾に注目したイベントであった。尾でバランスを取る様子を見せようと綱渡りをさせたが、準備期間が足らなかった上、思いの他ハツカネズミは綱渡りが下手なことが分かった。その経験から体力づくりと練習時間が必要と考え、ふれあいのハツカネズミの中から精鋭部隊を選抜し、短い距離・低い位置からの練習を始め徐々に距離を伸ばし、長い距離を移動できるように馴致していった。精鋭部隊が覚えたことを他のハツカネズミも真似することで、他のハツカネズミ全体が綱渡りをできるようになっていった。現在も生後 6 週間でデビューするハツカネズミたちは、まず遊具がたくさんある「ねずみワールド」で馴致したした後、先輩の後に付いて行ったりスタッフのフォローを受けたりしつつ綱渡りを覚えて、このシステムが維持されている。